



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しょしょうかい

多文化共生社会を生きる知恵を見つけよう

『異文化理解入門』

著者：原沢伊都夫

出版社：研究社 (http://www.kenkyusha.co.jp/)

発行年月：2013年6月 ISBN：978-4-327-37734-2 C1036

判型・頁数：A5判 236頁 定価：2,310円(税込み)



グローバル化に伴い、外国で仕事をする日本人や、日本で仕事をする外国人も珍しくなくなってきました。異なる文化を持つ者同士が共に暮らす「多文化社会」では、どのようなことに気をつければ「共生」できるでしょうか。今回は、そのヒントをくれる一冊をご紹介します。

▽異文化コミュニケーションの理論を自身の体験につなげる

本書には、私達が文化を異にする人たちとコミュニケーションする際、知っておくとよい知識が数多く紹介されています。各章のタイトルは次のとおりです。

第1章	異文化を理解する
第2章	文化とは(その1)
第3章	文化とは(その2)
第4章	異文化適応
第5章	シミュレーション
第6章	違いに気づく
第7章	異文化の認識
第8章	差別を考える
第9章	世界の価値観
第10章	異文化トレーニング
第11章	異文化受容
第12章	自分を知る
第13章	非言語コミュニケーション
第14章	アサーティブ・コミュニケーション
第15章	多文化共生社会の実現に向けて

各章のはじめには、章の内容に関する短い紹介文と4コマ漫画が用意されています。タイトルだけを見ると難しそうな本に見えますが、思わずクスッと笑える漫画の導入があることで本編の内容がイメージでき、肩の力を抜いて読み進めることができます。

本編は、その章のテーマに関する基礎知識の紹介と、その理解を確認する「確認チェック」および「解説」を中心に構成されていますが、必要に応じて、解答の手がかりとなる「ヒント」や、異文化理解の具体的な事例を示した「考えるポイント」の欄が設けられています。また、その章で扱った内容を、個人やグループで体験する「ワーク」や、その章の内容を自身の経験にひきつけて振り返る「考えよう」のページもあり、知識を得

るだけで終わりにならないような工夫がされています。第2章を例に、内容を見てみましょう。ここでは、最初の「確認チェック」で、「日本文化」と言われて思い浮かぶものを読者に挙げさせます。その結果を受けて、「解説」で、文化は、「寿司」「富士山」などの「見える文化」と、「価値観」「社会マナー」などの「見えない文化」に二分されることを紹介します。これらを理解した上で、次の「確認チェック」で、「ハグ」「割り勘」などの習慣が、読者にとって常識とされる行動かどうか判断させ、常識か非常識かの判断は育ってきた文化によって変わること、これらの行為が持つ意味（「見えない文化」）に対する不理解が異文化摩擦を生む原因になることを「解説」で指摘します。最後に、「考えよう」で、「見えない文化」に関連した自身の経験を振り返り、この章のまとめとします。振り返りでは、「考えるポイント」や異文化体験が豊富な著者の例が紹介された「異文化よもやま話」が参考になります。

▽自分以外の人はずべて異文化

本書が指す「異文化コミュニケーション」は、国、民族、言語の異なる集団に限ったものではなく、「親や兄弟」「配偶者」「他府県の人」「異なる職業の人」とのコミュニケーションも含みます。同国人同士であっても、理解しあえないことはよくありますが、「異なる文化を持っている人」と捉え直せば、理解を深める方策が見つかりそうです。

自身のコミュニケーションスタイルを知りたい人には第12章や第14章が参考になります。また、これから海外で暮らす予定がある人には第4章や第11章、外国人と接触する機会がよくある人には第9章や第10章が参考になります。

1 文化の水山モデル

文化は一日に一つ、あまりに無意識で身につくものからいっても、まずは、具体的な文化を学ぶことで、文化に対する認識を深めていきます。

<確認チェック1>

あなたは、「日本文化」といって何を思い浮かべますか、どんなものでもかまいません。典型的な日本文化をいくつか挙げてください。

日本文化を一つひとつ挙げることで、文化の概念を具体的に捉え取ります。教室でやる場合は、文化の多様性を感じるとともに、私たちがもつ文化のイメージは、実は文化全体のごく一部であることを確認します。

あなたは、どのような日本文化を想像したでしょうか。「歌舞伎」でしょうか、「富士山」でしょうか、それとも「着物」でしょうか。確かにこれらは日本文化の一部ではありますが、文化の概念にはもっと異なる要素が含まれます。文化のイメージをもう少し広げようとして、山田君と話し合ってみましょう。次のような質問を投げかけると、山田君の回答は、あなたの想像とは異なる部分があるかもしれません。たとえば、生け花、神社、日本料理などです。上の確認チェック2で皆さんの多くが思い浮かべたのは、このような「見える文化」だったのでないでしょうか。しかし、実際は表面より下にある「見えない文化」がたくさん存在します。この「見えない文化」には、人々の価値観や規範、習俗、考えなどが含まれ、山田君の大きな部分を占めています。「見えない文化」と

見えない文化：見えない文化は、両者が一体となって、日本文化を形成していると言えるでしょう。

日本文化

見える文化

- アニメ、漫画、ゲーム
- 寿司、着物、お祭り
- お茶の道、お風呂
- お寿司、お味噌汁
- お餅、お団子

見えない文化

- 価値観、倫理観、規範
- 生活習慣、マナー
- 宗教、神道、仏教
- 歴史、伝統
- 言語、方言
- 食文化、酒文化
- 芸術、音楽
- スポーツ、ゲーム
- 科学、技術
- 環境意識、自然観
- 社会意識、責任感
- 労働観、勤労観
- 時間観、時間意識
- 家族観、家族意識
- 教育観、教育意識
- 政治観、政治意識
- 経済観、経済意識
- 環境観、環境意識
- 健康観、健康意識
- 美容観、美容意識
- ファッション観、ファッション意識
- 食文化観、食文化意識
- 酒文化観、酒文化意識
- お祭り観、お祭り意識
- お風呂観、お風呂意識
- お茶観、お茶意識
- 着物観、着物意識
- お寿司観、お寿司意識
- お餅観、お餅意識
- お団子観、お団子意識
- お味噌汁観、お味噌汁意識
- お餅観、お餅意識
- お団子観、お団子意識
- お味噌汁観、お味噌汁意識

<確認チェック2>

以下の項目は、それぞれが日本文化の一部をなすものです。上の水山モデルにならないうえ、表面に出ていない見えないもの(C)はどれか、また表面に出ていない見えないもの(X)はどれか考えてみましょう。また、どちらとも言えるもの(D)はどれでしょうか。

(1) () OKサイン (2) () 大相撲 (3) () 生きかみ
 (4) () ギョウザ (5) () お餅の習慣 (6) () 総務省
 (7) () 夫婦の役割 (8) () 仕事に対する考え方 (9) () 誕生日